

# 地域医療連携室だより No.44

## 《 第9回 消化器疾患治療シンポジウム 》

平成28年10月20日(木)ホテルメトロポリタン山形で、「第9回消化器疾患治療シンポジウム」を開催しました。今回は「最新の消化器診療について」をテーマに、3名の先生からご講演いただきました。

**司会** 山形大学医学部 内科学第二講座 教授 上野 義之 先生  
公立学校共済組合 東北中央病院 副院長 齋藤 善広 医師



### 演題Ⅰ 『成人鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡手術』



演者：公立学校共済組合 東北中央病院 外科 横山 智 医師

経腹腔的腹膜前修復法（TAPP）は、患者負担がやや高い治療法ですが、出血量が少ないことや、術後疼痛が少なく早期の社会復帰が可能という利点があります。横山先生には、手術を行った症例の動画を用いて、術式の実際を説明していただきました。

### 演題Ⅱ 『教職員コホートからみた脂肪性肝疾患の実態とNASHの拾い上げ』



演者：公立学校共済組合 東北中央病院 消化器・肝臓内科 伊藤 麻衣 医師

当院の人間ドックで実施した内臓脂肪測定の結果を見てみると、脂肪肝の割合の増加、特に男性の有病率が増加傾向にあります。また、教職員の有病率も高く、ライフスタイルが大きく影響していると考えられます。伊藤先生には、人間ドックの肝臓機能検査に基づく疾患の実態を説明していただきました。

### 演題Ⅲ 『3cmを超える肝細胞癌に対するミリプラチン併用RFAの有用性について』



演者：山形大学医学部 内科学第二講座 勝見 智大 先生

ラジオ波焼灼療法（RFA）の治療ガイドラインでは、3cm未満の肝細胞癌に有用となっています。勝見先生には、3cmを超える肝細胞癌に対し、RFAと抗癌剤のミリプラチンを肝動脈に注入する塞栓術を併用する事で、RFA単独では治療が困難な大きさの肝細胞癌を治療した症例についてご講演いただきました。



日頃より、大変お世話になっております関係医療機関の先生方にご参集をいただき盛大に開催されましたことに、厚く御礼申し上げます。今後も医療情報を共有し、地域医療の連携強化に努めて参りたいと思いますので、該当症例がございましたら、当院にご紹介いただくと幸いに存じます。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

公立学校共済組合 東北中央病院

病院長 田中 靖久 編集：地域医療連携室

